

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 74

発行日 平成16年6月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

平成15年度学位記授与式	1
副学長就任のあいさつ	8
教授 中島 尚正 / 教授 大橋 英寿	
就任のあいさつ	10
教授 藤原 康晴 / 教授 多田 羅 浩三 /	
教授 中谷 延二 / 教授 佐藤 穂子 /	
教授 齋藤 高雅 / 教授 吉森 賢 /	
教授 本多 俊和 / 教授 工藤 庸子 /	
教授 木村 龍治 / 所長 矢野 由美彦	
修士論文紹介	15
前放送大学教授 江淵 一公	
学習センターの整備	16
山梨学習センターの新学舎紹介	
—人口が少ない山岳県のセンターをどう生かすか—	
長崎学習センターの移転	
—長崎のアカデミックゾーンの中心地長崎大学キャンパス内へ—	
教務のお知らせ	18

平成15年度 放送大学学位記授与式



平成16年3月14日、平成15年度学位記授与式が東京ベイN.K.ホールにおいて挙行されました。当日は、文部科学省、総務省、NHKなどから多数の来賓を迎え、学部卒業生と大学院修了生あわせて、およそ1,400名が出席しました。学歌合唱、来賓紹介の後、平成16年3月卒業生ならびに修了生に対して、卒業証書・学位記の授与が行われ、学長告辞、文部科学大臣ならびに総務大臣からの祝辞に引き続き、卒業生・修了生総代による答辞で閉式となりました。学長告辞等の内容については次のとおりです。

学長告辞

放送大学長 丹保 憲仁

放送大学の平成15年度卒業生として、今日ここにめでたく学士課程を終え学士（教養）の学位を得られることとなった、4,472人の皆様、そして本学の最初の大学院修了生、則ち第1期生として、

修士（学術）の学位を獲得された344人の皆様に大学を代表して、お慶びを申し上げます。放送大学は開学以来今日まで20年の歴史を刻み、総計して3万人以上の皆様のような卒業生を世に送り出すことができたことは教職員として心からの喜びであります。

公務ご多忙の中、河村文部科学大臣のご臨席を頂くことがで



きました。心より御礼申し上げます。

学士、修士の学位を獲得されるまでに、さまざまな困難を乗り越えて、「がんばり切ることを学んだこと」が、おそらく皆さんがこの大学で「学士」「修士」となられた一番の価値であろうと思います。自らの持続する意思と努力で階段を一つ登られたことをお慶び申し上げます。

この国では、老若男女を問わずすべての人が、学ぶ努力を始めたときに、学ぶことのできる環境を持っていることは大変に幸せなことと思います。その一方で、イラク情勢、アフガニスタン情勢、さらにはパレスチナ・イスラエル等の情勢は極めて難しい状況にあり、北朝鮮による拉致事件・核開発問題の論議にもまだ明確な進展がなく、争いの続く世界の中で、日本は今、経済と安全保障の両面で厳しい努力が求められていると思います。

争いを止め、過大な資源・エネルギーの浪費を止め、新しい共生の世界を目指して人類が努力すべき時に至りつつあると思います。この21世紀は、これから学ぶ人も、すでに一度は学んだ人も、それぞれが「限りのある地球の大きさを常に実感」して、はびこりすぎた人類の未来への生存に向けて、調和的な新しい生き方を創り出すための生涯学習の時代に入ったのではないかと思います。

ヒトは人類という大集団で生存している大変に特殊な生物です。成人は個体質量が50キロから100キロにも及ぶ比較的大型の動物で、60億人という途方もない個体総数が地球上に存在しています。地上動物の全質量のほぼ4分の1を占めているともいわれています。これに比べられる総量を持つ動物は牛だけで、これもまた人間のために存在させられています。豚・羊・ヤギ・鶏などの人に

のみ捧げられる家畜動物を加えると、地上はヒトの天下であり、人が挙動を間違えば多くの生物群が壊滅するところまで、人類は大きく強くなってしまったように思います。しかしながら、ヒトは動物の一種であることを超えられません。生物科学的な学問の進展が急速に進み、ヒトがヒトを超えるかもしれない恐怖を感じる 경우가少なくない状況になりつつあります。

様々な状況下でヒトが次の一步を印そうとすれば、今自分がどこにいるかを知る必要があると思います。闇夜に、闇雲に次の一步を踏み出しますと、人間社会も自然も混乱に向かうばかりです。確かな位置から慎重な一步を踏み出すべきです。

この大学の学習課程の主要部分を占める「教養学」は人の存在位置を決めるための学習システムといえることができます。その上で、次の意味ある一步を踏み出そうとすれば、個々人が現在まで獲得した体力、知力や経験に加えて、何がしか他人に先んじうる専門をもって社会へ報いることが必要でしょう。「専門」は人が公共（パブリック）に活動するときに必要な業であり、「教養」は人が自らの位置を知って自分の得意技を世に問う際の基盤となる学習であろうと思います。

地球上の物理的な位置決めは、衛星システムを使ったGPS（global positioning system）の出現で大変に正確になりました。人間はTVやITの発達で空間を超えて瞬時に世界の事柄を見ることができるようになりました。

しかし、見るができることと、知ることとは大きく異なります。知識は見て判断して初めて半ば形成されます。その反応を外に発信して再びその反射を受けて、初めて本当の知識が人の中に形成されるのだと思います。生涯にわ

たる学習は、見聞きしたものを発信して、その反射を受けて初めてワンサイクル（完結）となる勉強の仕方となるでしょう。

教養は、空間的位置決めに加えて、時間的位置の知識をも要求する4次元のスーパー（超）GPSです。歴史の展開は地域が絡み合いながらも、様々な速度で進行してきました。歴史的な時間の流れは、地球上で均一ではなく、地球上の時空間は極端に非対称であります。地域ごとに異なる時間スケールがあり、世界の国々の歴史を学ぶことがグローバル化の進行と対になって、今ほど大切な時はあまり多くないように思います。

人がおかれている地域の空間的位置と歴史的時間という4次元の世界で、グローバルゼーションは世界の果てまで生の情報を伝え、様々な地域で不協和音を立てているように思います。個人は、好むと好まざるとに関わらずその生まれた4次元空間の位置に大きく支配され、まだまだ世界は国々で成り立っています。何処で生まれたかで事の多くが決まるのは不条理であるとしても、現実を無視した空論や理想のみで事柄が進むとは思えません。自己の所在を着実に認識する努力が重要だと思います。

「お前は何者であるか」という問いに対して、外部情報の受信・自己の肉体を経ての反射・その成果の再受信まで含めた一連の学習を経て、確かな知識として自分の位置を求める努力を重ね続けなければ、世界市民の一人として何かを始めることは難しいと思います。

学校は知識偏重であるという人が沢山います。偏重どころか、知識をきちんと学習していないようにも思います。放送大学での勉強が本当の学習であり、個々人のよって立つ位置についての、信頼性の高い4次元の超GPSであって欲しいと思います。誰もが自分の位

置をなかなか決め切れないのが現実ですが、生涯にわたり教養的な学習を継続し、その上で他人の役に少しは立てるかもしれない専門の勉強を加えることが、必要であるように思われます。

私自身を省みてみれば、半世紀にわたり専門として勉強してきた水環境工学の問題についてさえ、確信を持って語れることは極めて少なく、自分の位置をもまだ手探りで求めている有様です。皆さんと一緒にさまざまな勉強を続けたいと思っています。

「いつでも、どこでも、だれでも」学べる、この大学のような仕組みが、これからの高等教育システムの中で大きな割合を占めて行かねばならないと思います。皆さんは、新しい世界を求める新高等教育のバイオニア的学习者であることを誇りに、これからも学び続けてください。

皆様のご健康とさらなる勉学の継続を祈念して、学位記授与式の告辞と致します。

文部科学大臣祝辞

文部科学大臣 河村 建夫



卒業生の皆様、御卒業おめでとうございます。特に、この度は大学院が開設して以来、初めての修了生をお送りするものであり、放送大学にとっても記念すべき日で

あります。心からお祝いを申し上げます。

放送大学は、入るのは易しいが出るのは難しい大学と言われております。卒業生の多くが家庭生活や社会生活と学習を両立させ、多くの困難を克服し、めでたく本日を迎えられたことと思います。そのためには、学習したいというひたむきな情熱と、学習を続けようとする並々ならぬ意志が必要であったと思われる。皆様のこれまでの御努力に心から敬意を表します。

また、卒業生の皆様を暖かく支えてこられた御家族、御友人の方々、職場の上司や同僚の方々に、敬意と感謝の意を表する次第です。

生涯学習の重要性については、今から二千年以上も前に、荀子が「学は以て已むべからず」という言葉で表現しております。人格の完成、個人の能力の伸長は、一生涯を通じた課題であります。私が敬愛する吉田松陰も「万巻の書を読むに非ざるよりは、安んぞ千秋の人たるを得ん」と学問が人格の陶冶に不可欠であることを強調しております。

また、少子高齢化社会の進行、高度情報化・グローバル化の進展、科学技術の進歩、さらには人間と自然、異なる文化・価値観を持つ人々との共生の必要性など、21世紀を生きる私どもの前には多くの課題があります。このような21世紀をよりよく生き抜くためには、生涯を通じて学び続けるほかにありません。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる放送大学は、こうした時代の要請に合った生涯学習の中核的機関であり、今後も国民のニーズに応えて一層発展されるよう期待しております。

皆様にとっては、本日が新たな出発の日でもあります。これまで放送大学において学ばれたことを

十分に生かし、一層の研鑽を積み、さらに「生涯学習」を続けられることで、約十万人にも及ぶ在学生の進むべき途を照らし続けていただきたいと思います。

最後に、丹保学長をはじめとする放送大学関係者の皆様方の御尽力に深く敬意を表するとともに、本日までの熱心な御指導に感謝を申し上げ、あわせて放送大学のますますの御発展を祈念いたします。お祝いの言葉といたします。

総務大臣祝辞

総務大臣 麻生 太郎

総務省情報通信政策局長 武智 健二（代読）



本日、ここに平成15年度放送大学学位記授与式が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

学部卒業生の皆様、御卒業誠にありがとうございます。

修士課程修了生の皆様、御修了誠にありがとうございます。

皆様におかれましては、年齢層も幅広く、また、職業をお持ちの方も多いと伺っております。御入学以来、学業を全うするため、日々の御努力を積み重ね、本日、晴れてこの喜ばしい日を迎えられましたことに、心から敬意を表します。放送を活用してこれまで取り組んでこられた学習の成果を生かして社会の各分野での更なる御

活躍を期待するものであります。取り分け修士課程修了生の皆様におかれましては、放送大学大学院がスタートして初の修了生となるとお聞きしております。その意味でも、皆様の後に続く方々の大きな励みとなるものと思います。

さて、放送大学学園は、昨年10月、それまでの特殊法人という組織形態から特別な学校法人に移行したところでありますが、自らが放送局を開設し、放送というメディアを利用して教育を行うという特色は何ら変わるところがありません。放送大学学園には、特殊法人時代の20余年の実績を受け継ぎ、「大学教育のための放送の普及発達」という目的の下、引き続き業務を着実に遂行され、さらなる発展を遂げられますよう期待しております。

昨年12月、地上デジタル放送が関東、中京、近畿の三大広域圏で成功裡に開始されました。放送大学学園におかれましては、平成18年の地上デジタル放送開始を目指し、準備を進めていると聞き及んでおりますが、先に国会に提出され、審議中であります平成16年度の政府予算案においてもそのための施設設備の整備等に係る経費が盛り込まれており、いよいよデジタル化に向けた準備が加速化されるものと期待しております。

申すまでもなく、デジタル放送は、各家庭に身近で簡便なIT基盤を形成するものであり、国民生活に密着したメディアとしての一層の発展が期待されています。放送のデジタル化は、高品質な映像・音声、データ放送、双方向サービスなどを可能とするものであります。中でも、教育・教養分野については、放送のデジタル化により、ハイビジョンによる臨場感あふれる高画質・高音質の教育・教養番組の視聴が可能となる

ほか、データ放送により付加価値の高い学習関連情報を入手できるようになるとともに、双方向サービスを活用することにより、放送番組の理解を一層深めることができるようになります。

このように、教育・教養分野は、デジタル化のメリットが最大限に発揮される分野の一つと考えております。放送大学学園におかれましては、デジタル化のメリットを生かした放送による教育の充実を通じ、設立の目的である「大学教育のための放送の普及発達」に努めていただくことを期待している次第であります。

卒業生及び修了生の皆様におかれましては、今後とも、時には放送大学学園の放送にチャンネルを合わせていただき、卒業生又は修了生の視点から放送大学学園を御支援くださるようお願いいたします。

最後になりますが、本日御卒業、御修了される皆様の一層の御活躍と、御臨席の皆様の御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

答辞

卒業生総代 産業と技術

渡辺 茂美



本日は私たち卒業生のために、このような盛大な式典を挙げて

いただき、学長先生をはじめ諸先生方並びに職員の皆様に心より感謝申し上げます。また、先程は大変お忙しい中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様から、ご祝辞をいただき、心よりお礼申し上げます。

今日、共にこの良き日を迎えることが出来ました我々は、年齢も職業も暮らす地域も、また放送大学で学ぶ動機も学習環境も様々です。このような私達が栄えある卒業の喜びを共有できることは、本当にすばらしいことと思います。

私は、平成11年4月に入学いたしました。入学して2年目は痴呆症の母の看病に追われ、放送大学での学習も思うようにできない日々が続きました。母が亡くなった後も多忙ではありましたが、家族の温かい励ましもあり、学習を続け、単位を修得し、本日の式に臨むことができました。

現在、私の3人の子供達も、皆、大学に在籍しています。住まいも4ヶ所に分散し、私の仕事である建築業も不景気で苦しい状況の中、苦勞している妻には本当に頭が下がる思いです。また、多くの学友も、様々な厳しい環境の中で、たくましく勉学に励んで、この式典に臨んでおられることと思います。

私は日頃、地域社会に関心を持ち、社会に還元できる研究をライフワークにしたいと考えていたこともあり、卒業研究は、最上川沿いの自分の住む集落を対象としての「金谷集落と水環境」としました。今は水に対する関心が一般的に薄くなっています。上下水道が普及し地下に埋設され、その存在が日常的に見えなくなってしまったことが原因の一つとも考えられます。その結果、近年、水を敬う精神が急速に失われてきています。

集落内で行ったアンケート調査では、水の大切さは誰もが一

応認識していましたが、反面、祖父母からは水で苦勞したことや楽しい思い出が孫達に伝えられないという深く考えさせられる問題がありました。

四季の変化に恵まれ、水も豊かな日本ですが、その将来を支える子供達に対して昔話のようなやさしい語り口で、まず、水を敬うことから始めて、自然を愛する心の伝承に心がけるべきだと卒業研究で結論づけました。

そーっと目を閉じてください。滾々と泉湧く所で、幼い子が小さい手で水を飲む姿を。ほほえましいですね。そして、大人は静かに両手ですくって飲み干す、その手は自然と胸で合掌しませんか。

そうです。日本人には太古より自然環境と調和し、感謝する心が息づいているのです。

私は、この4月から地区役員となり集落の運営の一端を担います。これからは、放送大学で学んだことを活かしながら、地域の人々と水を敬う心を育んでいきたいと考えています。

最後に、いつも熱心にご指導くださいました先生方、日頃から励まし、支えてくれた家族、同僚、インターネットを通じて交流した全国各地の学生サークルの仲間感謝すると共に、放送大学のますますのご発展、並びにご臨席の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、答辞といたします。

答辞

大学院修了生総代

文化科学研究科

村田 良子

本日は、私たち修了生のために、このような盛大な式を挙げていただき、諸先生方ならびに職員の方々に、心より感謝いたしま



す。またお忙しい中、ご臨席いただきましたご来賓の方々よりのご祝辞に厚く御礼を申し上げます。

私たち放送大学大学院修了生一同は、社会的立場や年齢は様々ではありますが、より高い学ぶ意志を持ち、放送大学大学院一期生として入学を決意し、今日、ともにこの喜ばしい日を迎えることができました。二年間という短い間ではありましたが、大いなる飛躍への道程であったと確信しております。

私が初めて放送大学の学生として、東京文京学習センターに通ったのは、双子の男児を出産した翌年、平成9年4月のことでした。育児休暇が明けて、職場復帰したときと同時期でした。その後、放送大学大学院が開校されると知り、2年前に再び、茗荷谷の学生となりました。当時より母として、大学と専門学校のデザインの非常勤講師として、とても慌ただしい日々をおくっておりました。育児や教えるという仕事はアウトプットが中心で、なかなか自分のために学ぶ機会を持つことができません。そういったジレンマの中で、もう一度デザインを研究し、自分自身のスキルを高めていきたいというのが、多忙な生活を覚悟し、修士取得という道を選んだ動機です。

修士論文は「社会の要請に根ざしたデザインとは何か」です。デザインの教育現場に身をおいたわずか十数年の間に、コンピュータ

によるデザインのデジタル化という大きな波が押し寄せ、その表現方法も教育方法も、全く変わったかに感じられました。そうした中で「デザイン」とはどういう行為であり、社会的にどのような影響を与え得るのかを改めて問い直すことから始め、ネット時代のデザインに関して論じたものです。私にとって初の論文でしたが、論理立ててものを考えること、言語で表すことの重要な意味をより深く捉え直すことができたと思っております。

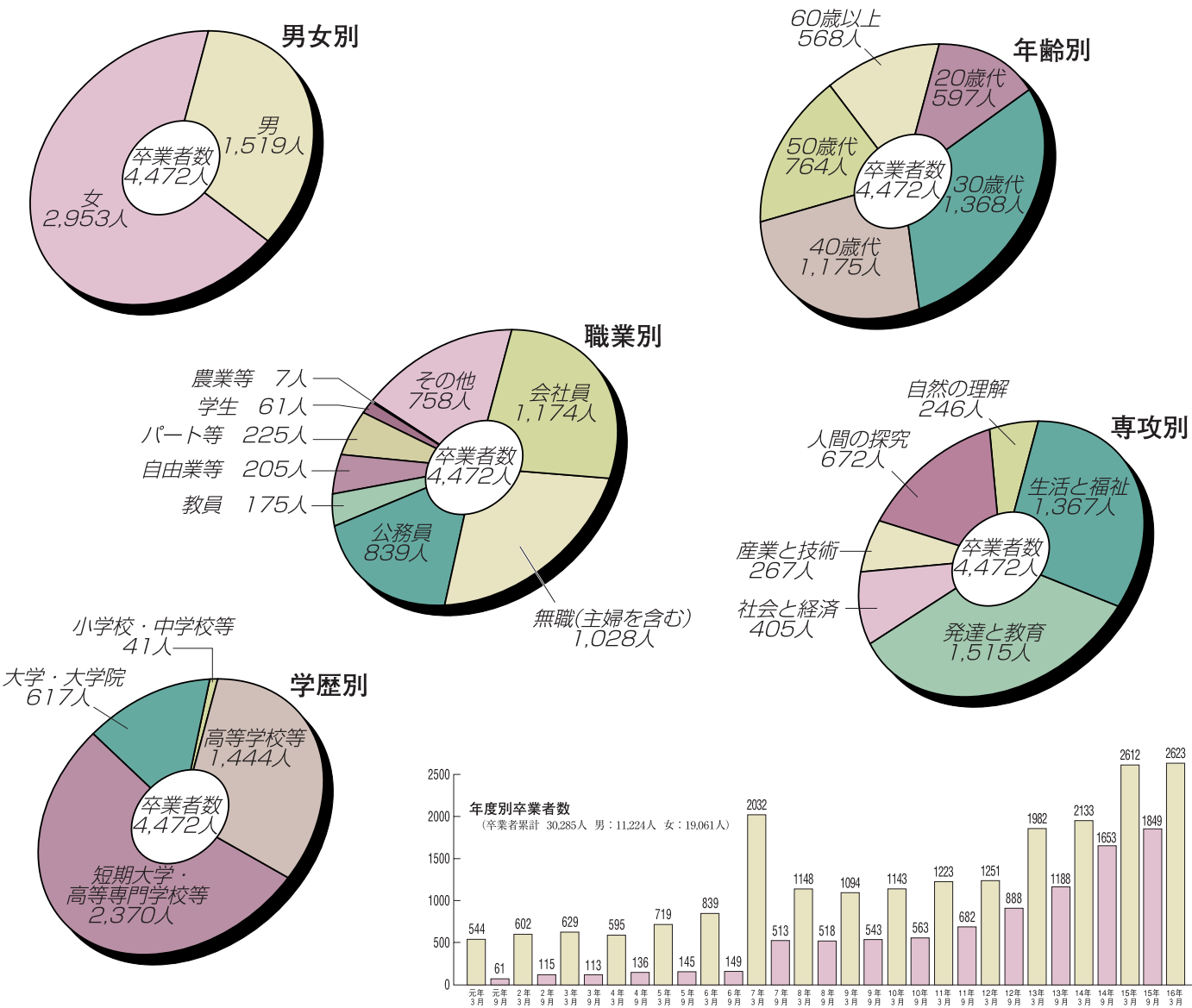
隔月で行われた対面による直接研究指導は、とても緊張感に満ちたものでした。ひとり一人の丁寧な指導は学習センターの閉門時間まで続けられました。他の多くのゼミにおいても同じようにきめ細かいご指導をいただいたと伺っております。

放送大学大学院で学んだことにより得た財産は数多くありますが、その一つはゼミの仲間という新たな人間関係を築くことができたことです。そして、なによりも掛け替えのないものは、先生や仲間たちに刺激され、知への好奇心をひとしお、高められたことにあるといつてよいでしょう。

これからは、放送大学大学院生一期生としての誇りを持ち、今まで以上に、デザイン表現の研究と、デザイナー教育に力を注ぎ、社会人として母として、小学校一年生になりました息子たちの手本になっていきたいと決意する所存です。

最後に常に熱くそして厳しくご指導いただきました諸先生方、蔭で支えていただきました職員のみなさま、励ましあった仲間たち、そして何より学ぶことへの理解を示してくれた家族に感謝するとともに、放送大学ならびに放送大学大学院のますますのご発展と、ご臨席のみなさまのご健勝をお祈りいたしまして、答辞といたします。

平成15年度卒業生概要



平成15年度卒業生数		〔単位：人〕						
		生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解	総計
平成15年9月		595	618	175	109	255	97	1,849
平成16年3月		772	897	230	158	417	149	2,623

専攻別卒業生数累計		〔単位：人〕						
区分		生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解	計
男		1,668	1,676	2,083	2,079	2,000	1,718	11,224
女		5,710	7,452	1,084	330	3,768	717	19,061
計		7,378	9,128	3,167	2,409	5,768	2,435	30,285

平成15年度 放送大学学位記授与式



学歌合唱

作詞 那珂太郎 作曲 柴田南雄 指揮 藤川能巳

ピアノ 新井ゆう子

合唱 放送大学千葉学習センター、群馬学習センター、東京文京学習センター、神奈川学習センターの合唱団

卒業生からひとこと

十数年かけての卒業となりました。途中仕事の多忙や手術を体験するなど、くじけそうになりました。でも面接授業で出会ったたくさんの友人達にアドバイスをもらい、又良き先生達に出会い、励まされました。

生活と福祉 竹本敬子

7年半をかけ、この秋に卒業しました。一人娘が、小学校を卒業するまでに、必ず私も！と決意し、念願がかないました。家族の多大なる協力と、職場の諸先輩に感謝の気持ちで一杯です。先生方ありがとうございました。

生活と福祉 遠藤奈美

家族、先生方、所属職員の御尽力を頂き名誉ある学位を手にする事ができ、一生の宝を得ました。大学を卒業したい思いでやって来たので、感無量です。今大学院を目指し、それを地域の福祉に役立てたいと思っています。ありがとうございました。

生活と福祉 鹿川美代子

再就職と同時に入学させてもらい、在学中に5人目を出産しました。仕事や育児のストレスを、学ぶ楽しさで飛ばさせてもらいました。卒業という目標は達成しましたが、生涯学ぶ楽しさから離れられずにいきそうです。

発達と教育 堀 幸子

放送大学のパンフレットを町かどで見つけたあの日から6年、やっと卒業にたどりつくことができました。気合いを入れながらの日々、終わってみれば、あっという間だった。しかし嬉しい、やっぱり嬉しい、自分に拍手。

発達と教育 鈴木千雪

卒業式を終え、充実感と達成感でいっぱいです。「学童保育」の仕事をしながら、子どもたち親たちの心と育ちをきちんと分かりたいと三年次に編入、途中でダメかと思ったことも多々ありましたが、頑張ってよかった!!

発達と教育 千葉順江

妻と一緒に3回目の卒業をと思っ

たが、私だけでした。私も最後の2単位修得に苦勞しました。放大的お陰で文京センターの隣の筑波大夜間大学院を知り、修士と博士を取得できました。次の総合知の挑戦は4月からの放大修士です。

社会と経済 五家建夫

放送大学に入学したのは、26歳の春でした。独身だった私も結婚、出産と学業と子育ての両立に取り組み、三姉妹を育てながら、やっと卒業することができました。入退院をくり返すなかで試験勉強したことは、私の黄金の歴史です。

社会と経済 田中尚子

今回の卒業には時間がかかりました。大正中期生まれの私は、妻と死別して20年になりますが、まだ持っているエネルギーを活用して、これからも若い世代の人びとと交流しながら放送大学で明るく学習を続けます。

産業と技術 佐々木雄一

38歳で放送大学に入学し男の厄年が終わる42歳で卒業。この間10万人に1人と言われる病気を患いながらも仕事との両立、家庭を支えながら今日この日を迎えられた事は感無量。病院で卒業免状を取れた苦勞は、一生の想い出となりました。

産業と技術 牧 忠司

「求めよ、さらば与えられん」この言葉につきると思います。欲しい物、得たい情報は自分のお金と足を使って取りにいかないと、身につけません。これから学習していられる方には、この姿勢を忘れないで欲しいです。

産業と技術 篠原裕典

放送授業は録画や録音で繰り返し視聴できて便利でした。しかし自分の限られた人生は巻戻しも早送りも出来ません。私は放送大学で様々な知識を得ただけでなく、悔いのないよう、今を精一杯生きる大切さも学びました。

人間の探究 山田牧子

放送大学では学ぶことの楽しさ、

素晴らしいさを教えていただきました。これこそ真の教育のあるべき姿ではないかと思います。ただ、卒業認定の通知をもっと早くにしていたら、もっとよいのですけど。感謝。

人間の探究 宮島ゆかり

60歳の声を聞いてから放送大学に入学、そして今日卒業を迎える事が出来ました。人間、諦めない事が大事だと思いました。一生学びたいという気持ちを忘れない事だと思いました。本当にありがとうございました。

人間の探究 夢沼芳子

会社経営の厳しい1時、式には出れないと言ったら、72歳になる母が「これで行きなさい」と祝金をくれました。年増のシンデレラは馬車の代わりに新幹線で長崎から来ました。数々出逢えた魔法使いの皆様に、感謝します。

人間の探究 吉岡規子

本日でたく？卒業？未完で長居してもいけないかな。大変な支援を頂いてどれだけ社会還元できるか心もとないが、先日孫娘に理科大さらいと言われてショック。4月からは学士入学して、理科ばなれを孫と共に学習します。

自然の理解 小澤安昭

職業柄転勤が多いので、全国ネットの放送大学で修士号がとれるようになったのは素晴らしいことです。講座内容の多様化とゼミ、講読方式授業の増加をお願い致します。博士課程開設や海外校とのネット授業も是非！

総合文化プログラム 矢野義昭

大学院での2年間で一番つかった事を振り返ると、一学期試験の前日まで米国出張していた事でした。時差ボケと多忙な中で臨んだ試験は以外にも好成绩でした。追い込まれた修羅場でこそ開花する才能もあります。社外人の皆さま、今後も頑張ってください。

政策経営プログラム 高橋 毅 (敬称略)

副学長就任のあいさつ



就任にあたって

放送大学 副学長 中島 尚正

インターネットの著しい普及であろう。放送メディアを補完する手段としてインターネットの持つ可能性は高く、本学でも既にこのような活用法の研究は始められ実験も行なわれている。

とにかくインターネットの急速な普及には目を奪われやすい。しかし、この20年の間の著しい変化としては、社会の営み、生活の様式が大きく変化し、生活者の価値意識が多様化したことも併せて注目する必要があると思う。

この多様化の影響を真っ先に受けることになったのは、産業界である。モノがまだ豊かでないときは、利用者には選択の余地は残されていないので、提供されるものをそのまま受け入れざるを得ない。極論すればメーカーは作りやすいものを作りさえすればよかった。しかし、モノが豊富になれば利用者は自分の好むものを選択することができるようになる。その結果として、利用者の多様なニーズは顕在化し、選択の目はますます肥えてくる。企業にとっては、工業製品にしても顧客サービスにしても多様化したニーズにどう応えたらよいか、真剣に取り組まないと生き残れなくなっている。

私はこの3月まで2001年10月設立の東京多摩学習センターの

所長を仰せつかった。何分にも新しい学習センターなので、その存在を知ってもらうために学生募集担当の方々と一緒に、多摩地区の自治体、大学、工場をできるだけ多く訪問して回る必要があった。その折に、授業科目への要望を各所で聞かせてもらったが、本学が提供している科目では対応しきれないほどニーズが多様化していることを教えられた。それと同時に、大小さまざまな組織や団体が生涯教育を競いあっていて、この競合によって学習者の選択の余地が急速に拡大していることも知らされた。

本学のこれからの発展を考えると、産業界がこれまで直面してきた問題を対岸の火事と決めつけてはならないと思う次第である。

本学に勤め始めたころは、幕張のキャンパス内で、時折、かすかな磯の香りを感じたものである。しかし最近では全く気付かなくなってしまった。これは環境が変化したのではなく、私が環境に慣れて鈍感になったせいであろう。住み慣れた環境の抗しがたい影響力をつくづく感じる次第であるが、この機会に初心にかえり、皆さんと一緒に本学の発展を考えたいと願っている。



昏ルルニ未ダ遠シ

放送大学 副学長 大橋 英寿

意味でな。残る日を数えようというわけではない」と。そして、隠居の身ながら藩内のもめごとの解決のために心ならずも働くはめになるのです。

長寿社会のいまどき、隠居はともかくとして、私もそろそろ人生の小春日和が楽しめる頃合いかなと心待ちしていたのですが、副学長という重責でそれも吹き飛んでしまいました。風雨にむけて帆を張り、一時、航路を変更しなければなりません。

私の専攻の社会心理学には、リーダシップについてPM理論というものがあります。組織の種類、規模の大小を問わず、リーダーには二つの資質が求められるのです。一つは組織に課せられた目標を遂行する役割で、パフォーマンスの頭文字をとってP機能とよびます。もう一つは、メンバーの満足感を充たして集団のまとまりを維持していく役割で、メンテナンスのMをとってM機能とよびます。この二つの機能をバランスよく十全に兼ね備えているのが理想のリーダー像というわけです。けれども、一人の人間がPとMの両方の資質を十全に備えるのは至難です。両方を備えていると思いついて入っている人は少なくありません。そこで、個々のリーダーの資質を測定して判別し、たとえば課長がP型ならばM型

60歳も過ぎた人は、いったい何が楽しみであるように朗らかにしていられるのだろうか。若いころ、不思議でなりませんでした。ところが、自分がその歳になってみると、見えてくる風景が違うのです。加齢とともに、たしかに体力、根気は衰えて気弱にもなるが、一方で浮き世のしがらみから少しずつ抜け出していけそうな解放感とともに、これまでよりは時空を気ままに楽しめそうな予感が高まってくるのです。

そうした向老期の微妙な心境の揺れが如実に描かれていて共感を覚える作品に、藤沢周平の『三屋清左衛門残日録』があります。東北の小藩、海坂藩の藩勤めを早めに辞して隠居した主人公は日々の心境を『残日録』と名づけた日記にしるす。“残日録”とは寂しすぎるのでは、と遠慮がちに問う長男の嫁に、清左衛門は答える。「なに、心配はない。日残りて昏ルルニ未ダ遠シ、の

就任のあいさつ



衣食住の衣の領域担当として着任しました。衣服の教育研究は大まかに3領域で行われています。最初の領域は衣服の素材です。私たちが着ています衣服の素材の織物や編物は糸から構成され、その糸は繊維が撚り合わされ構成されています。これら素材の製造や性能などに関する領域は、工学的、技術的にア

多くの専門分野とのかかわり

生活と福祉 教授 藤原 康晴

プローチがなされ、同じく、織物や編物の裁断、縫製も工学的、技術的に検討されています。しかし、どのような素材を用い、どのような形態の衣服を仕立てるかは、デザインの領域であり、芸術的な取り扱いがなされています。さらに、衣服の着用という段階では、着用者の個性とか社会制度、社会規範等とかかわり、心理学的、社会学的にアプローチされています。このように、衣服に関する教育研究は多くの専門分野とかかわって実施されています。

今日の社会に起こっている諸問題は、個々の専門分野では処理が難しく、多くの専門分野が関係して総合的に捉える必要のあるものが多くなっています。その観点から、衣服の教育研究は今日の社会の諸問題の教育研究にも通じています。これまで衣服の教育研究に従事してきました経験を活かし、多くの専門分野にかかわっています「環境システム科学」、「生活と福祉」の教育研究をすすめてまいりますのでよろしくお願いいたします。



食による生活習慣病の予防を目指して

生活と福祉 教授 中谷 延二

2004年4月、「食」の分野担当として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。これまで私は生活科学の領域のなかで「食品機能化学」という分野を担当し、教育、研究に携わってきました。具体的には主に香辛料から抗酸化成分、抗菌成分など食品の保存、日持ちに有効な成分や果物の色の化学構造を解析し、それらの機能性（有効性）を研究し、明らかにしてきました。

私たちが毎日食物を摂取する（食べる）ことはいうまでもなく生命の維持や活動エネルギー源として栄養素を獲得するためですが、食品には嗜好性（おいしさ）にかかわる成分や身体の種々の機能を高め、調節する成分がたくさん含まれています。後者の栄養素以外の成分には私たちの健康にかかわる大切な働きをする成分が多数あります。たとえばがんや動脈硬化などのいわゆる生活習慣病の発症を抑え、予防する効果のある食品成分が見出されてきております。この分野の研究は日本が

先駆けて取り組んだ課題で、現在世界中で盛んに研究が展開されてきております。私もこの食品機能化学の分野での研究を続けていきたいと考えております。現在、世界一の長寿国となった日本において「健康」が最も関心の高い課題のひとつであります。また「食」をとりまく環境の中でとくに安全性にかかわる問題が多発しております。健康で安全な生活を目指してみなさんと一緒に「食を科学する」勉強をし、研究に取り組んでいきたいと期待でいっぱいです。



社会の中で考え学ぶ

生活と福祉 教授 多田 羅 浩三

体制であるといえます。このような理解からすると、地方自治体の機能が公衆衛生活動の最も重要な基盤であるということになります。そのような認識のもとに、これまで主として、例えば老人保健事業や国民健康保険の実績をもとに、各自自治体の住民の健康の実態について分析しフォローすること、また保健計画や保健福祉計画の策定作業に協力、参画することを中心に研究活動をすすめてまいりました。放送大学は、現場ではたらく

人たちを対象に教育活動を行い、その人たちと一緒に勉強し、研究することが大学の目的であると理解しています。その点、公衆衛生学は社会の中で考え、学ぶことをモットーとする学問の領域であり、私もそのことを常に念頭において、これまで教育、研究活動を続けてまいりました。ですから放送大学においてさらに広く、現場で社会を支えている多数の人たちとともに、公衆衛生、健康科学をテーマに学び、教育や研究を行うことができれば、これほどありがたいことはありません。



人々の暮らしと共に在る看護

生活と福祉 教授 佐藤 禮子

いよいよ、看護学担当の初の専任教員として就任し、少々とまどいながらも使命感を燃やしたせ、頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。看護学は実践の科学であり、看護実践は人の生活の営みに深く関わり、その人との関係において成り立つものです。ですから、看護学は、座して学ぶだけ

では十分ではありません。常に、看護サービスを利用する人にとっての価値を考え、人に生かせる看護実践の内容や質の向上を追求し学ぶ必要があります。看護は、一人一人異なる人間に向き合うことになりますから、人間についてよく知っていることが重要です。相手を理解するためには、自分という人間を知ることがまず必要です。人間対人間の関係が、専門的な援助関係として成立するためには、多くの学びを必要としますが、放送大学で開講されている科目には、興味をかき立てら

れるものがたくさんあり、どれも役立ちそうに思えてきます。人々の暮らしと共に在る看護は、変化する社会にあって、常に保健・医療・福祉の動向を見据えつつ、発展しなければなりません。放送というメディアを使って、いかに自分を生かし責務が果たせるか、もっと探る必要があるとも考えています。看護学を学び、専門職として生かそうとされる方にも、また教養として日々の生活に取り入れたいと考えられる方にも、大いに役に立つ授業を作りたいと考えております。



これまで総合病院における精神科、主として大学病院で臨床心理士として仕事をしてきました。何らかの症状、あるいは問題を持って病院に訪れた人の心の問題に関わる仕事です。業務の中心は、主に「心理アセスメント」と「心理療法」です。当初、ケース理解の的確な把握のための心理検査の実施、解釈が初めに要請され、次第に、ケー

変化の時代に

スの治療、心理療法をも任されるようになりました。入院患者さんを対象とする集団療法も依頼されましたが、主に行ってきたのは個人療法です。対象は、思春期・青年期から老年期の方々に及んでいます。私が学び、教育を受けた心理療法は、精神分析学的な流れを汲むものです。私の恩師は難解な精神分析用語を用いるのではなく、日本語による日常語を用い、「自分の頭で考える」ということを基本においた精神療法を目指していましたので、私の心理療法の理解と技法は必然的に折衷的な

発達と教育 教授 齋藤 高雅

ものとなりました。医療領域が長いのですが、他に産業保健領域、司法領域、また大学での学生相談にも比較的長く携わってきています。広く「精神保健」領域の仕事をしてきたといっても良いかもしれません。

臨床心理学は、実践と研究とが不可分の関係にある学問領域であり、また、人の生き方に直接関わる学問領域の一つです。それだけに私自身の実践と研究の成果を専門領域に関する講義の中で生かせることができたかと願っております。



はじめて極地のイヌイトに出会ったのは、およそ30年前のことです。そのときのカルチャー・ショックは、今でも脳裏から消えません。白夜の空の下でイヌイトの古老イヌクサーックさんからシャーマンについて教えてもらっているとき、宗教をめぐる議論になりました。大学で文化人類学を勉強してきた私は、当時まだ「未開人」と間違

文化人類学は実学

人間の探究 教授 本多 俊和
(スチュアート ヘンリ)

って認識されていたイヌイトの古老との議論では、負けるはずがないと慢心していました。しかし、結論からいいますと、完膚無きまでにやり込められました。

この経験を通じて、文化人類学を勉強することは、自分と自分の文化を勉強する学問分野でもあると痛感しました。ややもすれば、文化人類学はどこかの遠いところに住む人びとの生活と文化を調べる、私たちの日常生活とはあまり関係のない研究だと理解されがちな分野です。

しかし、上にのべた経験からおわかりのように、文化人類学は自己鍛錬の場でもあるとともに、現在、世界のいたるところで起きている紛争や対立、政治的、社会的な問題などを理解し対応するために、不可欠な知識を提供してくれる学問でもあります。

2004年4月に着任したばかりですが、今後、面接授業と放送を通して、文化人類学の魅力と実用性を伝える授業を目指し、ともに学んでいきたいと思ひます。



放送大学とは客員教授として8年来のお付き合いです。私は最初にラジオで「日本の経営・欧米の経営」を担当し、2001年からはテレビで「日米欧の企業経営 - 企業統治と経営者 - 」を担当しています。

この間私は放送大学の自分の授業は逃げるようにして見ませんでしたが、他のテレビ番組は毎日のように視聴しました。その中で私が最も感銘をうけた放

放送大学は私にとっては学びの場

産業と技術 教授 吉森 賢

送は「大学の窓」で、様々な年齢、職業の受講生が放送大学に入学した動機や困難を乗り越えて履修する体験を語る姿です。私自身も他の同世代の日本人と同様に苦学の経験がありますので大きな共感を覚え、彼らの自己啓発意欲の高さは強力な刺激になりました。

放送大学の多くの受講生は社会人であり、多彩な仕事と人生の体験の持ち主です。私にとっては良き先生でもあります。したがって放送大学は私にとっては学ぶ場所でもあります。

私はこれまで続発する企業の不祥事をどうしたら防止できる

かという問題を日米欧比較により研究してきました。2005年度からのラジオによる授業では、高い長期的成果を実現するために企業統治のみならず、企業理念と企業文化、企業戦略、企業倫理も不可欠という視点から、「経営システム - 経営者機能」という新しい授業科目で皆さんと共に勉強したいと思います。

放送教材や印刷教材、授業のやり方などについて電子メールなどを通じてどうぞ遠慮なく皆さんの感想、助言、批判などをお知らせください。ご健闘を祈ります。



以前から社会人教育に関心をもっておりました。わたし自身の希望に沿った活動の場を与えられまして、心から嬉しく思っております。

大学で私はフランス文学を学びました。その後、ミッション系の女子大に勤め、さらに国立大学の大学院で「地域文化研究」という専攻に身を置いておりました。大学の制度改革の荒波に揉まれながら、しだいに専門分野を拡げてきたというのが、こ

「生涯学習」は私自身の課題

人間の探究 教授 工藤 庸子

れまでの経緯です。

ヨーロッパ近現代の小説や旅行記などを出発点として、歴史学との接点で考察をすすめてゆきたいと考えています。オリエンタリズム、コロニアリズム、イスラムとキリスト教をめぐる文明論などが目下の研究課題です。

グローバリゼーションの時代に、英語だけでなく、もう一つの外国語を学ぶこと、またその外国語で書かれた文献を読むことに、どのような意味があるのでしょうか。私自身は、外国語を学ぶことは、その言語の内包する知性を学ぶことであり、またその知性の描きだす世界観に

親しむことであると考えています。

フランス語は美しい言葉です。古典的な文学作品の端正なフランス語は、もちろん素晴らしいのですが、それだけでなく、クレオールと呼ばれる混成言語やアフリカなどで話されている独特のリズムのフランス語にも固有の、豊かな表現力が備わっているのです。

皆さんの多様で広範な問題意識に応えられるよう、わたし自身も新鮮な気持ちで学び、みずから「生涯学習」を実践してゆきたいと思ひます。

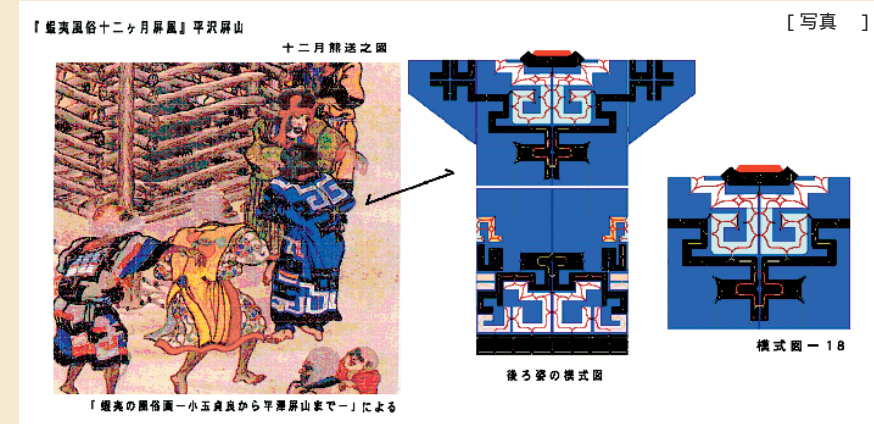
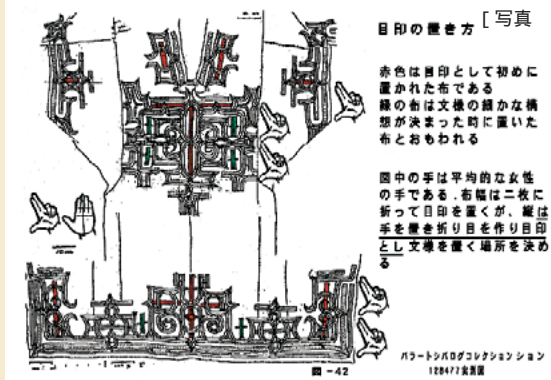
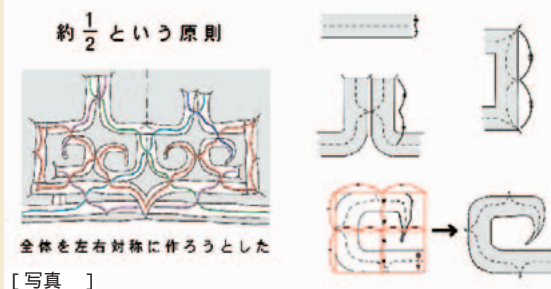
「アイヌ女性の創造した衣文化」

(平成14年度入学 文化情報科学群 修士全科生 津田^{のぶこ}命子)

江 淵 一 公 (前放送大学教授・文化人類学研究指導責任者)

この3月、放送大学初の修士号取得者が多数誕生した。私が主査を務めた文化人類学分野の修士は8人だったが、その修論はいずれ劣らぬ力作揃いで、予想を遙かに超えた高水準の論文に脱帽した。その中から、前人未踏の課題に果敢に取り組み、貴重な史料や精密な図版を駆使して仕上げた津田命子さん(北海道学習センター所属)の独創的な研究の一端をご紹介します(副査、佐々木利和文化庁主任文化財調査官)。津田さんのテーマは、獣皮、鳥皮、魚皮、靱皮(樹皮) [写真] といった素材で衣服を

作ってきたアイヌの伝統的衣文化が木綿という異文化との接触によってどのように変化し、またどのような新しい文化を生み出したかという、異文化接触に関する古くて新しい問題を、アイヌの衣服に施された独特の文様 [写真] 作成の技術に焦点を合わせて検討したものである。アイヌの伝統的技術文化は、明治以来強行されてきたアイヌ人同



化政策のために失われたものが多い。津田さんの研究は、それらを掘り起こして現代に生かそうという野心的な試みでもある。現代のアイヌ刺繍作家たちは、「三上流」と呼ば

れる、伝統文様から下絵を起こして布に転写するという方法を採用しているが、そのオリジナルである本来のアイヌ文様はどのようにして描かれ縫合されたのか。それを解明するため、彼女は国内はもとより世界各地の博物館を精力的に訪ね歩いて資料を集め、丹念に調べた結果、「2分の1の原則」 [写真] 「手指による長さの測定法」 [写真] などの伝統的技法を発見し再構成したのである。

ちなみに、津田さんの研究は、大学院生を対象とするトヨタ財団若手研究者助成金を受けて行われたもので、放送大学大学院の認知度を高めるのに寄与した。こうした研究がこれからもどんどん生まれることを期待してやまない。

自然観の構築

自然の理解 教授 木村 龍治

日々の天気の変化はもちろんのこと、集中豪雨や台風、地震、火山など、さまざまな自然現象が身近にあります。時には、自然災害によって生活が脅かされることもあります。また、1988年以来、地球環境問題が大きな社会問題になり、グローバルな環境変化が注目されるようになりました。

私たちは生まれたときから地球上にいます。自然がどのようなものなのか、ある程度の経験的な知識をもっています。しかし、身近な自然は、自然のごく一部なのです。ちょうど、時計の針の動きは見えても、

その裏にある時計の仕掛けは見えないのと同じように、自然現象の仕掛けは、ほとんど隠されています。地球科学は、その仕組みを探究する学問です。環境問題を考える場合にも、自然界の仕組みを知らなければ、有効な環境対策はできないでしょう。あなたが環境問題に関心をもったら、ぜひ、放送大学の講義によって、その仕組みを学んでください。そして、あなた自身の自然観を構築してください。そのお手伝いをするのが、私の役割です。

知の連携

群馬学習センター所長 矢野 由美彦

うな社会では、教養を重視した個人の知的自立のための生涯学習は欠かせなくなりました。事実、キャンパス以外のサテライト教室や昼夜開講の大学院の社会人の数も年々増えていきます。知識の強化と連携を図り、知の時代を心豊かに送りたいと願う人は今後ますます増えることが予想されます。学びたいとき、いつでも、どこでも学べ、広範囲な科目を提供する放送大学の役割は今後ますます大きくなることでしょう。

私は長年、バイオミメティックケミストリー (Biomimetic

Chemistry) の分野で、教育研究を行ってきました。実験科学の立場から、補酵素モデル分子や人工レセプターの振る舞いを観察し、シナリオを書き、いくつかの分子ドラマをつくってきました。今後は、少し幅広い領域も勉強し、少し異なる視点から、新しいシナリオが見いだせたらと考えたりしています。

幅広い年代と様々な職業の、勉学意欲のある学生のいる放送大学で、すばらしい出会いも期待しながら、充実した日々を送りたいと思っています。よろしくお願いします。



2004年4月、「地球科学」担当として着任しました。放送大学では、「環境」と名が付く講義がいくつも開講されていますが、その中には、地球科学の視点で環境を見ようとする科目があります。専門科目の「日本列島の地球科学」、「流体的地球像」、大学院の「地球環境科学」などです。私自身も、この4月から「変化する地球環境」という一般科目を開講します。



4月から群馬学習センター所長に就任いたしました。微力ではありますが、本学習センターの発展に努力したいと思っていますので、よろしくお願いいたします。昨今の産官学連携、分野横断型の組織やプロジェクト、総合化や知的財産の帰属の問題などは、人々の意識変化とあらゆる分野のパラダイムの変化を求めています。このよ

山梨学習センターの新学舎紹介

ー人口が少ない山岳県のセンターをどう生かすかー

山梨学習センター所長 ^{うづか} 兎束 保之

放送大学の電波塔から発信された電波が、どの辺りまで到達するかという実験的な意味で、甲府地区学習センター（旧名称）として発足したのが昭和63年でした。持分の面積は120m²、山梨大学図書館の一部を借用して全170m²という規模でスタートし、この3月まで、その状態が続いていました。平成14年度に母体校である山梨大学が山梨医科大学と統合され、その校舎設備を充実させる計画が基本となって、合築棟建築へと発展しました。

新学舎は標準サイズの1,200m²ですから、講義室数は増し、視聴学習室は一挙に大きくなりました。学生間の交流に必要なスペースがあり、保健室もできました。この新学舎なら、学生が集中する土日型面接授業も単位認定試験も、全て対応できますから、本当に有り難いことと感謝しています。職員の日常業務は、倉庫面積が大きくなった

分だけ、山積した新旧の書類に囲まれることなく行えると、喜んでいきます。

山梨県は人口が90万に達しない小さな県であり、公共交通機関の便が悪く、CATVも利用しにくい山岳県です。学生募集にとって不利なこのような条件を克服し、新学舎の大きさと機能をフルに発揮させることこそ、今後の課題です。

広報活動を一層活発に行うのは当然として、面接授業の内容を充実させ、近県の学習センターに所属する学生も参加したくなるほど魅力的にしたいと知恵を集めています。魅力を生み出す方策のひとつとして、小規模センターでこそ実現できる、実習・実験・実技を伴う面接授業科目を積極的に開設する方針です。それに備えて、多目的室の一部には簡易な実験・実習設備を設けました。

放送大学の学生は年齢的にも社会的経験でも幅が広いのが特徴です。その学生達が互いに言葉を交わしやすい雰囲気を作り、自分達の学び舎のシンボルと受け止め、かつ卒業後も共通の話題になる絵画を数多く展示するようにしました。

新学舎は、甲府駅北口から武田神社方向へ15分ほど、ゆるい昇り坂を歩くと道路に面した左側にあり、「放送大学」と壁に大きく書かれた建物の1階と2階です。面接授業を受けたあとには、気軽に歴史探訪、温泉を楽しむ場所です。



長崎学習センターの移転

- 長崎のアカデミックゾーンの中心地長崎大学キャンパス内へ -

長崎学習センター所長 浦 晟

放送大学長崎学習センターは、生涯学習の中核機関として、多くの長崎県民の期待を背負って、平成4年4月長崎県多良見町に設置されました。平成14年4月からは大学院の受け入れも始まり、本年4月をもって満12年を迎えたところです。設置以来これまで、長崎学習センターは長崎の郊外多良見町で

多良見町の手厚い協力を受けながらここまで順調に発展して来ましたが、街の喧騒から隔離された静かな学習環境だったのですが惜しむらくはセンターのアクセスがままならず、多くの学生さんからは「交通が不便」という苦情が寄せられていました。さらに、昨年10月、放送大学学園が特殊法人から特別な学校法人に移行してからはこれまで以上に、事業運営の改善と学習センターの整備充実が重要な課題となってきました。このような事情の下、学園理事長はじめ関係各位にご努力いただき、多良見町及び長崎大学とも協議が整って、この度急遽移転することになった次第です。

移転先は長崎大学総合教育研究棟（全12階）の3階西側部分。面積はこれまでより少し狭くなり



ますが、ホール、ラウンジ等共有部分のスペースが広いので、学生さん達には好都合となります。更には長崎大学附属図書館が利用しやすくなり、食堂や売店はキャンパス内や学外周辺にもたくさんあって、環境はこれまでとは大違いです。急な移転話であったため学生募集、単位認定試験、面接授業、次学期の準備等、通常の業務を消化しながらの慌ただしい引越作業となりました。幸い、本部のご指導を仰ぎながら、職員一同一丸となつてことにあたり、無事移転をすることができました。

新しいセンターの発足をバネに、長崎学習センターが長崎県民の身近な生涯学習機関として、より一層充実し発展しますよう祈念いたします。

教務のお知らせ

教養学部学生及び大学院修士科目生募集

平成16年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成16年6月15日(火) ... 平成16年度第2学期学生募集要項配布開始

出願期間	平成16年6月15日(火)~ 平成16年8月31日(火)
可否通知等	平成16年8月上旬~平成16年9月中旬
学費の納入	平成16年8月上旬~平成16年9月末
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成16年8月中旬~平成16年9月末
授業開始	平成16年10月1日(金)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。
- ・また、平成16年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成16年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学科が割引になります。
- ・出願締切日は**平成16年8月31日(火) 必着** です。

大学院文化科学研究科修士全科生募集

放送大学大学院文化科学研究科では、平成17年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成16年6月15日(火) ...平成17年度修士全科生学生募集要項配布開始

出願期間	平成16年9月1日(水)~ 平成16年9月14日(火)18:00(必着)
第一次選考(書類選考)	平成16年9月下旬~平成16年10月上旬
第一次選考(書類選考)可否通知	平成16年10月8日(金)発送
第二次選考(小論文試験)	平成16年10月24日(日)
第二次選考(面接試問)	平成16年11月13日(土)~平成16年11月14日(日)
可否通知等	平成16年12月10日(金)発送
学費の納入	平成17年3月上旬~平成17年3月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成17年3月上旬~平成17年3月末
平成17年度授業開始	平成17年4月1日(金)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方 に対し、入学者選考を行った上で入学を許可します。
- ・修士科目生として修得した単位は、本学大学院に修士全科生として入学した場合、修了に必要な単位として通算される場合があります。

平成16年8月1日(日)~ 8月10日(火)までに出願資格事前審査があります。詳細は募集要項をご覧ください。

来学期も引き続き学籍のある**在学生の方**は、「**科目登録申請要項**」で**7月27日(火)消印 ~ 8月10日(火)必着**までに科目登録を行う必要があります。(科目登録申請開始の8日前になっても関係資料が未着もしくは紛失した場合は大学本部等にお問い合わせください。[詳細は「学生生活の栞」をご参照ください])

事務組織の再編成について

放送大学では、平成15年10月1日をもって、放送大学学園の設置形態がこれまでの特殊法人から法律に基づく特別な学校法人へ変わったことに伴い、これまで以上に学生のみなさまの視点に立った事業運営を行うとともに、生涯学習の中核的機関として、様々なご要望により細やかに応えていくために、平成16年4月1日から本部事務組織を変更いたしました。

平成16年4月1日以降の各種申請、お問い合わせ等につきましては、既にお配りしています「学生生活の栞」をお読みいただき、担当の部署までご連絡ください。

なお、本部事務組織は変わりますが、学習センター及びサテライトスペースの役割、機能はこれまで同様なんら変わることがありません。今後とも、学生のみなさまのよりよい学習環境の向上に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

旧 組 織		⇒	新 組 織	
教務部	・教務課 ・修学指導課 ・大学院課		教務部	・企画課 ・教務課 ・修学支援課 ・学生サービス課 ・図書情報課 ・学習センター支援室
学習センター部	・学習センター課 ・図書課			

区 分	教 養 学 部	
	変 更 前	変 更 後
所属専攻変更願及び所属学習センター変更願	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 <u>大学本部修学指導課履修登録係</u>	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 <u>大学本部学生サービス課履修登録係</u>
単位認定試験受験センター変更願	大学本部修学指導課修学情報係	大学本部修学支援課単位認定試験係
住所等変更届	所属の学習センター	所属の学習センター
改姓届	大学本部修学指導課履修登録係	大学本部学生サービス課履修登録係
休学届及び復学届	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 <u>大学本部修学指導課履修登録係</u>	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 大学本部学生サービス課履修登録係
退学届	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 <u>大学本部修学指導課履修登録係</u>	○群馬・埼玉・千葉・東京世田谷・東京文京・東京足立・東京多摩・神奈川・山梨・長野の各学習センター所属の学生は、 <u>所属の学習センター</u> ○上記以外の学習センター(サテライトスペース含む)所属の学生は、 大学本部学生サービス課履修登録係

区 分	大 学 院	
	変 更 前	変 更 後
所属学習センター変更願	大学本部大学院課	大学本部修学支援課
単位認定試験受験センター変更願	大学本部修学指導課修学情報係	大学本部修学支援課単位認定試験係
住所等変更届	大学本部大学院課	大学本部学生サービス課
改姓届	大学本部大学院課	大学本部学生サービス課
休学届及び復学届	大学本部大学院課	大学本部修学支援課
退学届	大学本部大学院課	大学本部修学支援課

放送大学「情報リテラシー教育」実施のお知らせ

放送大学では、本学の学生を対象にコンピュータの利用方法を入学後の早い時期に習得できるよう、「情報リテラシー教育」を実施しています。

この講習は主に、パーソナル・コンピュータを利用するのが初めての方、あるいはこれから利用してみたい方等を対象に実施するもので、受講による単位修得はありません。実施日時や受付方法等の詳細については、実施する学習センターの掲示およびキャンパス・ネットワークによりお知らせしますのでご覧ください。

概要は次のとおりですので、興味のある方は是非ご参加ください。

- 1 実施予定学習センター
 - ・埼玉学習センター
 - ・千葉学習センター
 - ・東京世田谷学習センター
 - ・東京文京学習センター
 - ・東京足立学習センター
 - ・東京多摩学習センター
 - ・神奈川学習センター
 - ・群馬学習センター
- 2 講習内容
 - コンピュータの利用
 - ワープロソフトの操作方法
 - ファイル操作
 - インターネット
 - 電子メール等
- 3 講習時間 10:00～17:55
(面接授業の 、 、 時限に相当)
- 4 受講申し込みについて 受講したい学習センターで講習料2,000円を添えてお申し込みください。

(注) 講習時間、申込方法等については学習センターによって異なる場合があります。

編集後記

卒業式の頃になると筆筒から取り出すものがある。小豆色のガウンと黒い帽子。帽子はまるで画家が被るような、丸くて平らな形をしている。博士号授与式の時の衣装だ。ガウンには名札が付いているが、書かれているのはわたしの名前ではなく、指導教官の名前である。同じカレッジを何十年も前に卒業した彼が、退任時の最後の学生にプレゼントしてくれたのである。

学問研究という行為には、新しいことを生み出すという側面とともに伝統を受け継ぐという側面がある。そして、後者は前者の前提だと思っている。受け継ぐものには知識や技術だけでなく、何か精神的なものが含まれる。わたしは指導教官が託してくれた思いに応えられているだろうか。この季節にいつも不安になる。(山岡龍一)

サテライトスペース新設のお知らせ

福島学習センターに、ランチ・センター的な機能を有する「いわきサテライトスペース」を新たに開設しました。

福島県には郡山市に学習センターを設置していますが、このたび、文部科学省、いわき市、東日本国際大学などの関係各位のご尽力により全国7番目のサテライトスペースとして平成16年4月に東日本国際大学内に設置しました。

サテライトスペースでは、放送番組の再視聴、単位認定試験及び面接授業を実施しますので、福島県東部における機能的で多様な学習の拠点として、多くの方々にご活用いただくことを期待しております。

なお、新規の学生受入は平成16年度第2学期からです。

また、「いわきサテライトスペース」の開所時間及び所在地等は次のとおりです。

- 開所時間 (火～土) 10:00～19:00
(日) 10:00～18:00 (月曜日・祝日は休み)

- 所在地等 〒970-8023
福島県いわき市平鎌田字寿金沢22-1
(東日本国際大学内)

JR「いわき駅」よりタクシーで約6分

JR「いわき駅」よりJR「四倉駅」行きバス約7分、神谷農協前下車徒歩1分

問い合わせ先

いわきサテライトスペース TEL 0246-22-7318
福島学習センター TEL 024-921-7471

大学通信編集委員会

(平成16年度)

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	同	香山壽夫
委員	同	齋藤高雅
〃	同	長岡亮介
〃	助教授	奈良由美子
〃	同	山岡龍一
〃	同	青山昌文
〃	同	杉森哲也

(編集事務担当
教務部学生サービス課)



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/hp>

ISSN 1343-3369

R100